

山川登美子記念演劇で与謝野晶子に挑戦！  
岡 恵里さん (27歳・谷田部)



## きらり おばま 人

高校時代は演劇部に所属。地元で就職後、社会人として参加した市民ミュージカルで再び舞台へ。今年、山川登美子記念館開館5周年記念演劇で与謝野晶子役に抜てき。練習に励みます。

「6月に役が決まってから、与謝野晶子を知ろうと、登美子記念館へ行ったり、本や論文を借りたりしています。与謝野鉄幹に憧れ、恋する、しおらしい人かと思っていたら、気性が激しかったという一面も知り、イメージが変わりました。公演当日は晶子により近い形で演じられたら」とニコリ。

今回、山川登美子役に選ばれた萩原

### 可能性を信じれば何でもできる

さん(高浜町在住)とは、高校の同級生で同じ演劇部だったという縁。

「卒業後も、演劇部の公演には足を運んでいました。萩原さんと10年ぶりに同じ舞台に立てて嬉しいです。登美子と晶子は、同じ理想を語りあう友人であり、鉄幹をめぐって嫉妬やコンプレックスも感じ合う関係なんです」と友人との競演にも意欲を見せます。

「今回の演劇を通して、自分自身小浜のまちを見直すきっかけになりました。登美子記念館など小浜のまじごころを県外の人にもちよつと説明できるようになりました」と笑顔で話す岡さんは、絵を描くのも大好きとのこと。

「今までは趣味や好きなことを出すと恥ずかしいという気持ちがありました。そんな気持ちを打ち破って、今は自分を出す、表現するというのが楽しいです。演劇や絵を描くことを通して、身近な人から県外の人まで、多くの人の輪が生まれています」

最後に小浜がこれからどういうまちになってほしいか聞いてみました。

「都会にならなくていいですが、活気のあるまちがいいです。やってみようと思ったり、できるという可能性を信じれば、何でもできるまちだと思っています」と話す岡さん。どんな晶子を表現するのか今から楽しみみです。

※演劇公演は10月27日(土)の予定

●あなたの周りの「きらり輝いている人」「生き生きしている人(グループも歓迎)」を紹介してください。  
市民協働課 広報・広聴グループ ☎53・1111 内線373

## 協働のまちづくり情報BOX (vol. 9)



### 大河の水も一滴から 小さな積み重ねが大きな地域力に

■問い合わせ 市民協働課 ☎内線372

今回は、市民協働のまちづくりを目指して、市民の皆さんとともに日々取り組んでいる市民協働課の担当者の声をお届けします。

●村の祭り酒という話があります。ある年の夏祭り、収穫を祈念して毎年たる酒を用意してました。ある年、不況で酒が買えなくなり、悩んでいたころ、ある人が、「みんなの家から1合ずつ酒を持ってきて、たに入れたらどうだ」と提案しました。「それはいいアイデアだ」ということで、みんなが持ち寄って、たるがいっぱいになりました。祭りの当日、みんなでたるを割って飲んだころ、中身は酒ではなく水でした。

●みんな「自分1人くらい水を

入れても分からないだろう」と思っていたのです。人間の弱み心が見える話です。

●私たちが目指す協働のまちづくりも、自分ひとりが参加しなくても、誰かがやってくれるだろうと他人まかせでは進んでいかないと思います。

●協働は、市民の皆さんひとりひとりの参加、参加から始まり、この土台が欠かせません。

●これから協働のまちづくりを進めていくうえで、市民の皆さんが、満足感、達成感を味わい、協働のまちづくりを実感していただければと考えています。

●本年度は、協働のまちづくり元年であり、市民の皆さんには、今まで以上に、まちづくりに積極的に参加、参画してもらい、いっしょになって、小浜のまちを耕していきたいと思えます。そうすることで地域が発展していくのではないのでしょうか。

●「大河の水も一滴から」。協働も、小さな積み重ねが、大きな地域力になっていきます。

### 短歌

蒼島短歌会

ツタンカーメンの襟飾りに見るハヤブサの  
頭は黄金に光りてまぶし 生守 佐野 鈴子

追はれきて海に逃げたる親熊を  
浜に獵銃かまへる人見ゆ 東勢 杉崎 康代

木立なか谷の水辺に蛙らの  
呼び合ふ声か夕霧ふるふ 飯盛 谷口 正枝

### 俳句

小浜市俳句作家協会

万緑や黄色い帽子列なして 小浜津島 植村富美枝

獣害を防ぐ網吹く青田風 水取四丁目 岡 志ほり

蛇の影花南天を素通りに 山王前一丁目 船上 照江

### 山柳

若狭番傘川柳会

飾り物付けない母が光ってる 池田 中村志津子

色あせた造花昔を振り返る 東市場 前川 正子

サングラス外してごらん青い空 小浜今宮 益田 文子

# 広告

# 広告

# 広告

# 広告

# 広告

# 広告